

もっと安心農産物 キャベツ (冬どり) 栽培層 (令和5年)

JAちばみどり 海上野菜組合産直部

1. 土づくり

・完熟堆肥2トン/10aを施用するか、エン麦・ギニアグラス・ハブソウを輪作体系として作付けする

2. 施肥 ☆施肥診断にもとづく施肥量の遵守 化学肥料窒素成分使用量14kg/10a以下

基肥は①、②、③のいずれかを選択する。

	肥料名	施肥量
基肥	①マイルドユーキ030号 (10-13-10 有機態窒素 5.3)	100kg/10a以下
	②エコレット866(8-6-6 有機態窒素 4.1)	140kg/10a以下
	③ちばみどり有機888(8-8-8 有機態窒素 1.2)	160kg/10a以下
	苦土石灰	60kg/10a
追肥	マイルドユーキ030号 (10-13-10 有機態窒素 5.3)	60kg/10a

3. 防除 化学合成農薬 8成分回数まで(苗購入の場合6成分回数まで)

(Zボルドー・スピノエース顆粒水和剤・エスマルクDFは、化学合成農薬に含めない)

月	管理作業	病虫害の発生推移	薬剤名	希釈倍数・処理量	回数	対象病虫害	備考 (耕種的防除の実施等)
8月中旬	播種	ネキリムシ ↑ ヨトウムシ ↑ 黒腐病・べと病 ↑ コナガ ↓	①ネビジン粉剤 又は ネビリュウ	20~30kg/10a (播種又は定植前)	2回	根こぶ病	害虫の発生量を減らすため圃場周辺の除草をする 育苗床は害虫防除のため寒冷紗でトンネル被覆をする
下旬			②カルホス微粒剤F	6kg/10a (播種時又は植付時)	1回	ネキリムシ類	
9月上旬	定植		③フォース粒剤	4kg/10a (定植時)	1回	ネキリムシ類	コナガ
			エスマルクDF	1000~2000倍 発生初期(但し、収穫前日まで)	—	ヨトウムシ ハイマダラノメイガ	
				1000倍 発生初期(但し、収穫前日まで)	—		
中旬	下旬		④コルト顆粒水和剤	3000~4000倍 (収穫前日)	3回	アブラムシ類	フェロモントラップ等で発生量を観察し防除を実施する
3000倍 (収穫前日)				ネキアザミウマ			
⑤コテツフロアブル 又は ⑤プレオフロアブル			2000倍 (収穫前日)	2回	コナガ		
			1000倍 (収穫7日前)		ヨトウムシ		
10月上旬	追肥 土寄せ		Zボルドー	500倍 (—)	—	黒腐病・べと病	土寄せ後黒腐病の防除を実施する
中旬		スピノエース顆粒水和剤	2500~5000倍 (収穫3日前)	3回	コナガ ヨトウムシ		
下旬	結球 初期	エスマルクDF	1000~2000倍 発生初期(但し、収穫前日まで)	—	コナガ	アブラムシ類発生の場合は、⑩モスピラン顆粒水溶剤 2000~4000倍 (収穫7日前・5回)を散布する	
11月上旬							

			1000 倍 発生初期(但し、収穫前日まで)	—	ヨトウムシ ハイマダラノメイガ	
中旬	収穫	⑥アフアーム乳剤	1000～ 2000 倍 (収穫前日)	3回	コナガ ヨトウムシ	降雨が多い場合は、菌核病防除の為、⑪セイビアーフロアブル20 1000 倍 (収穫 3 日前・3回)を散布する
下旬		⑦アレバソソフロアブル 5	2000 倍 (収穫前日)	3回	アオムシ ヨトウムシ	ヨトウムシが多い場合は、⑫フェニックス顆粒水和剤 2000～4000 倍 (収穫前日・3回)を散布する
12月 上旬		⑧トルネードエースDF	1000～ 2000 倍 (収穫 7 日前)	2回	コナガ	
中旬						コナガが多い場合は⑬ハチハチ乳剤 1000～2000 倍 (収穫 14 日前・2回)、アザミウマの場合は 1000 倍を散布する
下旬			⑨グレースシア乳剤	2000～ 3000 倍 (収穫 7 日前)	2回	コナガ ウワバ類 アオムシ

☆みんなで守ろう生産基準